

三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興プロジェクト



<背景>

■東日本大震災

- ・自然環境、自然公園施設・自然体験型利用への影響
- ・自然の脅威とのかかわり方の再考

■守り・育まれてきた自然と人とのかかわり

- ・豊かな自然に支えられた地域の暮らし、文化、産業、里山・里海

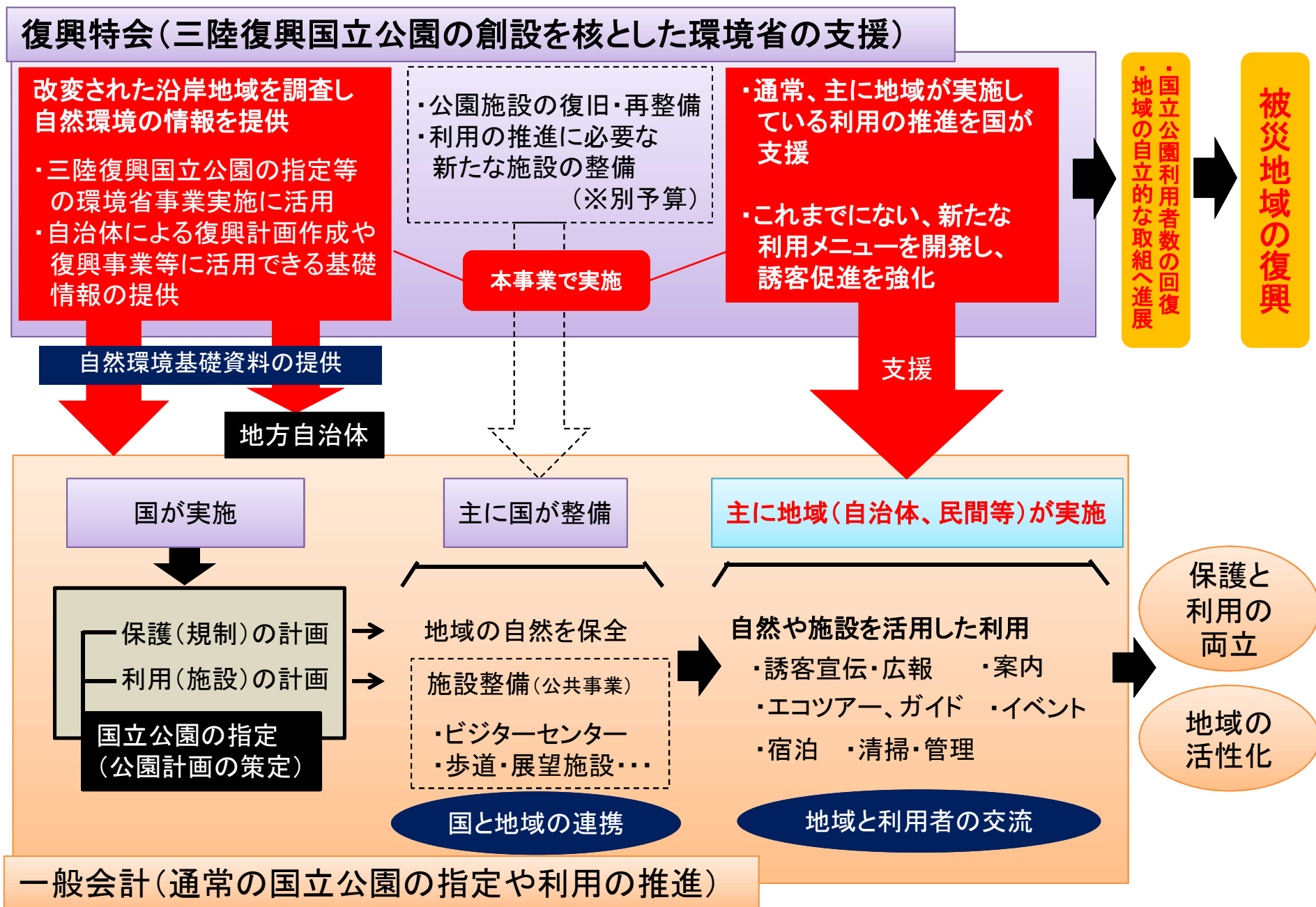
三陸復興国立公園の創設を核とした グリーン復興を実施<7つのプロジェクト>

- ①三陸復興国立公園の創設（自然公園の再編成）
- ②みちのく潮風トレイル(南北につなぎ交流を深める道)
- ③エコツーリズムの推進
- ④施設整備と里山・里海フィールドミュージアム
- ⑤森・里・川・海のつながりの再生
- ⑥環境教育（持続可能な社会を担う人づくりの推進）
- ⑦地震・津波による自然環境への影響の把握

<今後の予定>

- 南三陸金華山国定公園を三陸復興国立公園に編入
- みちのく潮風トレイルの全路線の開通（平成27年度中）

三陸復興国立公園再編成等推進事業費(復興特会)の活用による復興

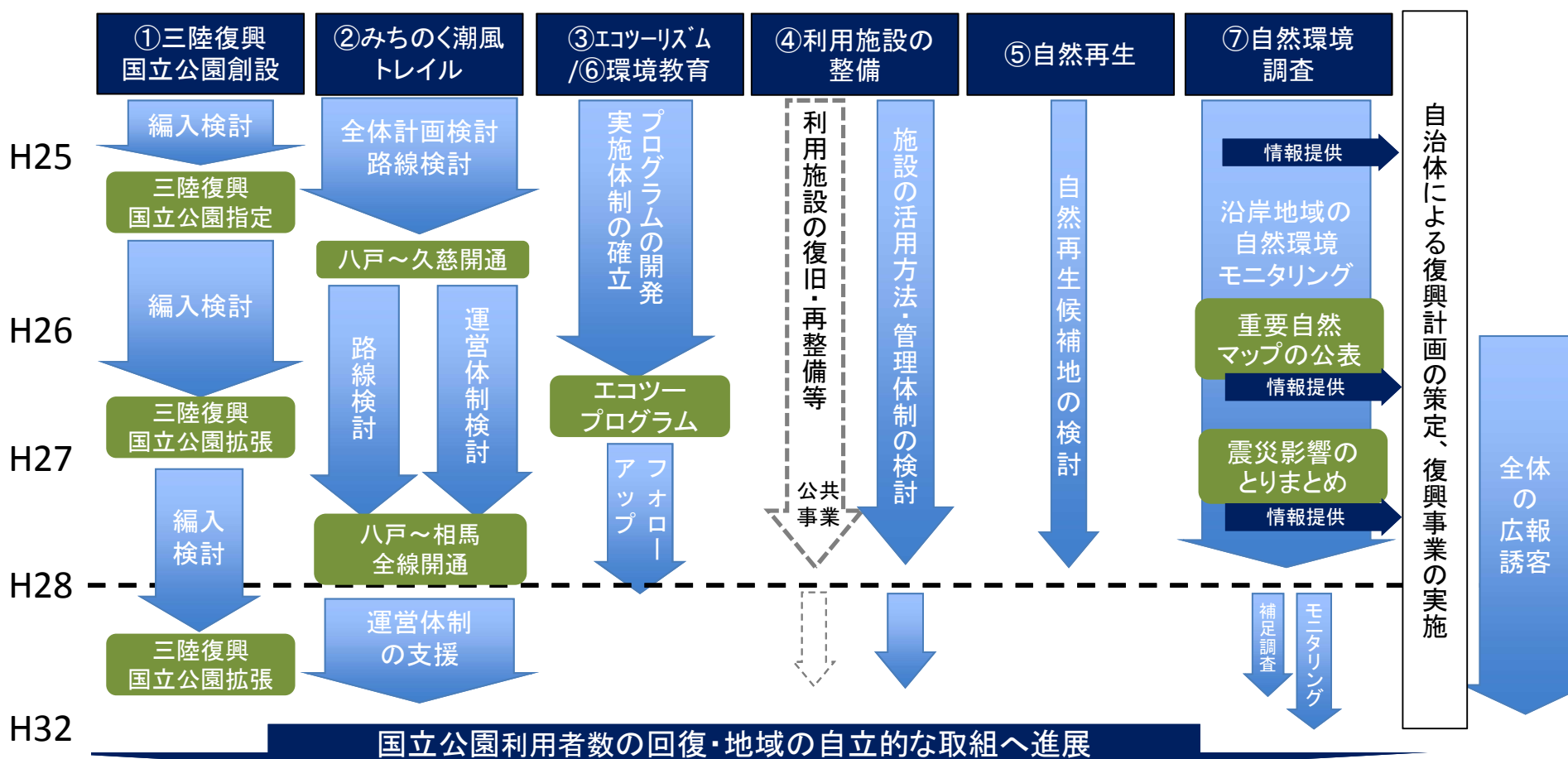


三陸復興国立公園再編成等推進事業費の実施内容について

青い矢印➡は本事業(復興特会)の実施内容

- 連携** 東北地方環境事務所(仙台)や八戸・宮古・大船渡駐在の自然保護官が、実施体制・実施内容を地域と一緒に検討
- 相乗効果** 三陸復興国立公園を一元的にプロデュース(全体構想、宣伝、メニュー相互のつながり)
- 即効性** 国立公園指定やトレイル開通などの話題性や各種イベントの実施による誘客

H24 三陸復興国立公園を核としたグリーン復興のビジョン策定(7つのグリーン復興プロジェクト)



復興後も地域活性化が続いていくことを目指す

自然環境情報の整備・復興事業への反映

自然環境情報の整備

<目的>

- ・特に震災による影響が大きかった自然環境・生態系を調査
- ・調査結果を公園計画や復興事業等に活用
(合意形成や環境アセスを含む。)

<調査範囲>

岩手県～福島県北部を中心に青森県六ヶ所村から千葉県九十九里浜までの津波浸水域及び後背地



○津波による植生の変化

津波による植生、土地利用の破壊と回復状況を把握



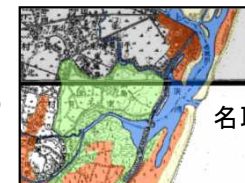
○津波による砂浜・海岸の変化

津波による砂浜の消失、堤防の破壊などを把握



○100年前との比較

約100年前の土地利用状況を調べることで、土地のポテンシャルを把握



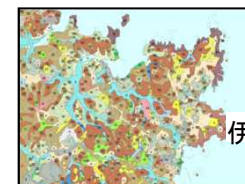
○津波による海域生態系の変化

漁業の場としても重要な干潟、藻場等の影響と回復状況を把握



○後背地の植生図

後背地における復興事業等の迅速化のため基礎となる植生図を作成



○市民参加型調査

多くの市民の目により対象となる動植物の状況を把握



○新しく出現した湿地の調査

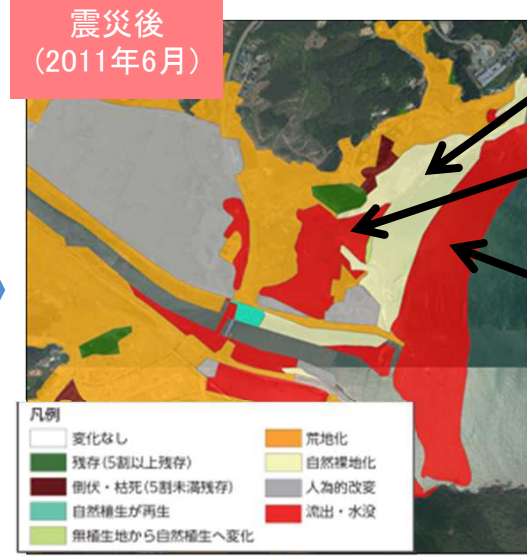
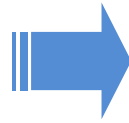
津波・地盤沈下により新たに出現した湿地に出来た生態系を把握



○津波による植生の変化(宮城県気仙沼市 赤崎海岸)



*地形図: 国土地理院2万5千分の1地形図



*空中写真: 国土地理院撮影

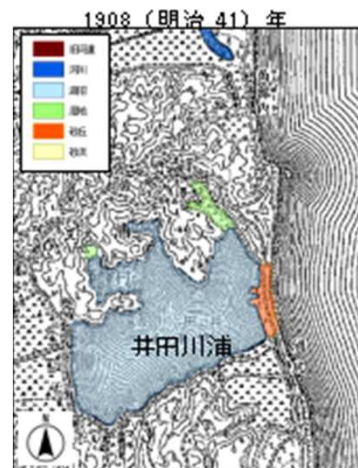
砂浜が新たに出現

湿地が新たに出現

海岸林・砂丘植生の大部分が消失、水没

→生態系の破壊だけでなく、新たな生態系が出現。ゆっくりとした回復も見られる。

○100年前との比較(福島県南相馬市 井田川浦)



*地形図: 国土地理院2万5千分の1地形図



*空中写真: 国土地理院撮影



→かつて水域だった場所が、津波や地盤沈下により水域に戻った。
→復興・防災のためにも、本来土地が持っているポテンシャルを活かすことが重要

○津波による海域生態系の変化

大きな影響を受けたが、少しずつ回復が見られる。

干潟(岩手県釜石市 鵜住居川河口)



→津波により砂州が消失して水田等が干潟化。アサリなどに底生動物相が変化

海鳥繁殖地(青森県八戸市 蕪島)



→津波による海鳥(ウミネコ)への直接的な影響はなかった

○新たに出現した湿地の調査

塩釜市 野々島 (10月6日)



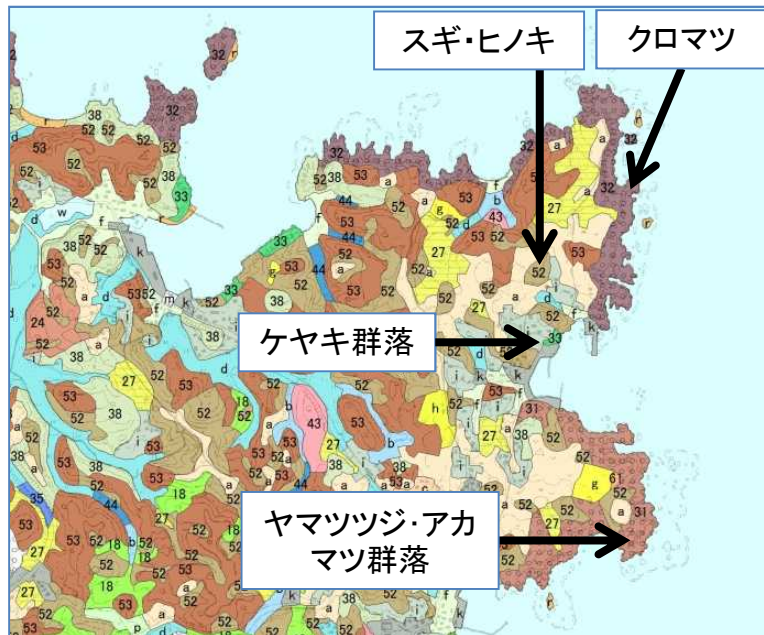
ゲンゴロウ(環:VU)



メダカ(環:VU)

→ゲンゴロウやメダカなどの希少な種を確認。新たな生態系として注目。

○後背地の植生調査



→自然環境保全や各種事業計画立案、環境アセスメントの基礎情報として重要な1/25,000植生図について、被災地の未整備区域を前倒して作成。

→沿岸地域の生物多様性、生態系の概況を把握。(基礎資料)

→復興事業の自然環境調査や環境アセスメントなどの迅速化に寄与

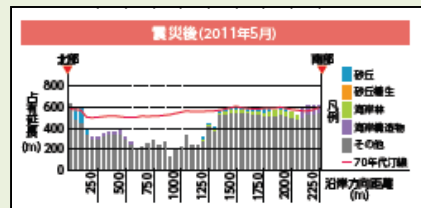
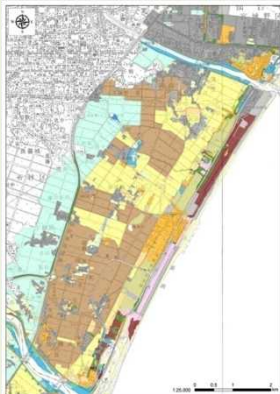
○市民参加型調査「しおかぜ自然環境調査」

→地域で活動する団体や観光客の関心を促すための市民調査を実施

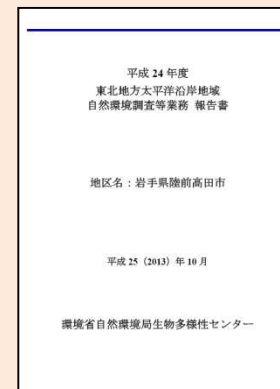
→インターネットなどを通じ、ニホンジカ、ハマヒルガオなど20種の対象種の情報を収集

自然環境情報の復興事業への反映

○調査データ

[illegible]

○パンフレット



津波浸水域に含まれる
63市町村別の報告書。
各市町村・県に配布



ブルー・プラネットプロジェクト
しおかぜ自然環境ログ

～東日本大震災による自然環境の状況と、自然を守るためのガイド～



環境省
国土・自然環境政策総局



調査報告書



被災地の自然への影響



しおかぜ自然環境調査



しおかぜ自然環境ログ

データを使うのに 技術が必要

見える化 「マップ」

地域の復興事業

まちづくり

防災・減災

など

自然環境の保全・利活用

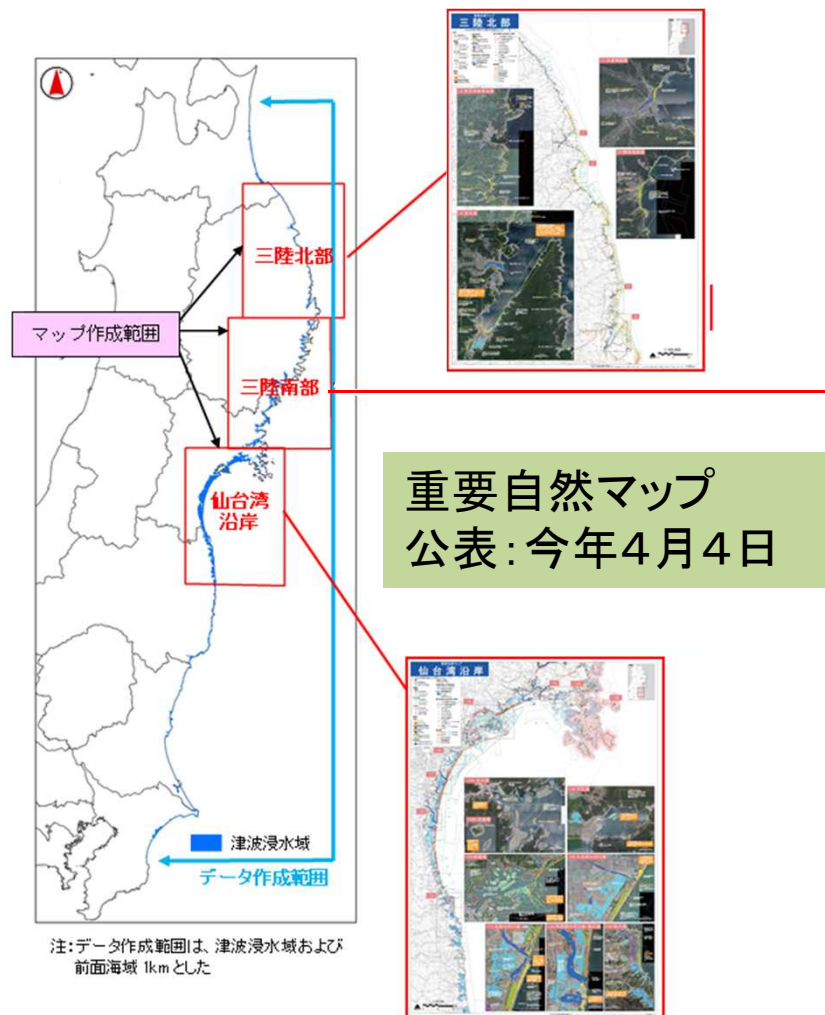
地域の自然を活かした公園整備

エコツーリズム

東北地方太平洋沿岸地域における「重要な自然」を示したマップ(重要自然マップ)

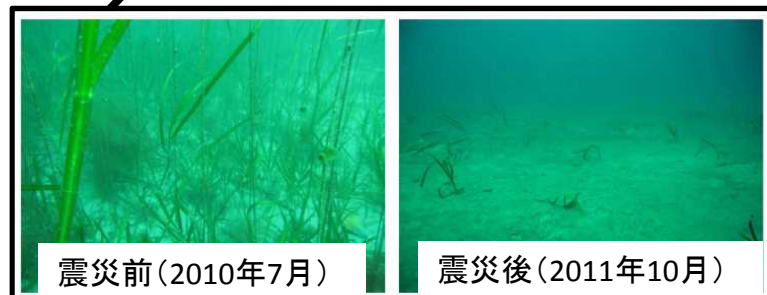
自治体や住民に分かりやすく情報を提供するために、自然環境情報を「みえる化」

※各種計画策定の基礎資料として、また、その合意形成のためのコミュニケーションツールとして期待

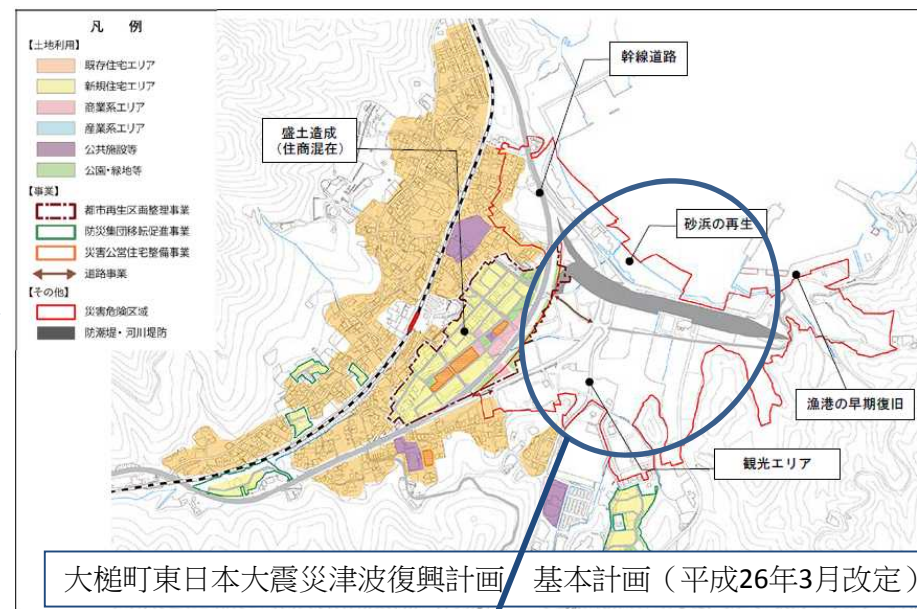


自然と共生する復興計画にデータを活用

重要自然マップ(船越湾奥部)



大槌町・吉里吉里地域復興イメージ



新たな生態系を保全しながら
活用することが可能な地域

→上記の例としてあげた大槌町については、データの提供のみならず、今後の自然共生型の復興計画の検討について支援を検討中。

→マップ公表(4月)後、同様の動きがあり、今後、拡大していきたい。

※2012年段階の情報を元に作成しています。

[illegible]

2012年生態系監視調査（海島繁殖地）
 国指定天然記念物「日出島クロコシジロミヅツバメ繁殖地」、国指定日出島鳥獣保護区（特別保護地区）
 日本赤十字社のクロコシジロミヅツバメの海鳥繁殖地、オオミズナギドリとの競合、土壌流出により営巣環境が劣化している。約40mまで達した津波により、林床の土壌流出、樹木の枯死等が認められた。2012年度調査は、オオミズナギドリ、ミヅツバメ群の繁殖を確認した。
 （日出島：むでしめ）

砂浜と残存樹林地のまとまり

・磯の浜（たこのはま）
 砂浜と岩場が残りなすリアス特有の景観

・弁土ヶ浜（しょうどがはま）
 三岳を代表する景勝地
 砂浜、陸地と岩場が残りなすリアス特有の景観

断崖地と落葉のつながり

シノリガモ等のカモ類の生息

・稲荷川（いなりがわ）河口は
 アメモの生息、カサガシの魚釣場、ニホウナギ、アユ等、回遊魚やモズガニ等の生息

2012年生態系監視調査（干洲）
 津波石川では42種（希少な種3種を含む）を確認。震災前には二枚貝類が豊富という特徴があったが震災後、2011年には二枚貝はほとんどみられなかったが2012年にはアサリ、マガキガイが確認。スワンガイ、ソトオリガイも回復。（津波石川河口）

・金浜（かねはま）
 シギ・チドリ、ガンカモ類等、希少な種を含む鳥類や希少な種を含む塩性植物

・津波石川（つかるいしかわ）河口
 県内最大級の干洲、残存する砂浜生物の侵入、定着種、シギ・チドリ類の生息地、希少な猛禽類が飛来する。希少な種を含む、塩性植物の生息

・太田浜（おおたのはま）
 エゾシロガモの生育地（特定地域対策）
 震災や台風の影響を受け減少

砂浜と残存樹林地のまとまり

・砂浜（砂丘種生）と残存樹林地のまとまり

まともったアマモ場があった。（津波後一部残存）

・津波石川（つかるいしかわ）
 ニホウナギ、イトヨ等の希少な種を含む鳥類や、モズガニ等の甲殻類の生息

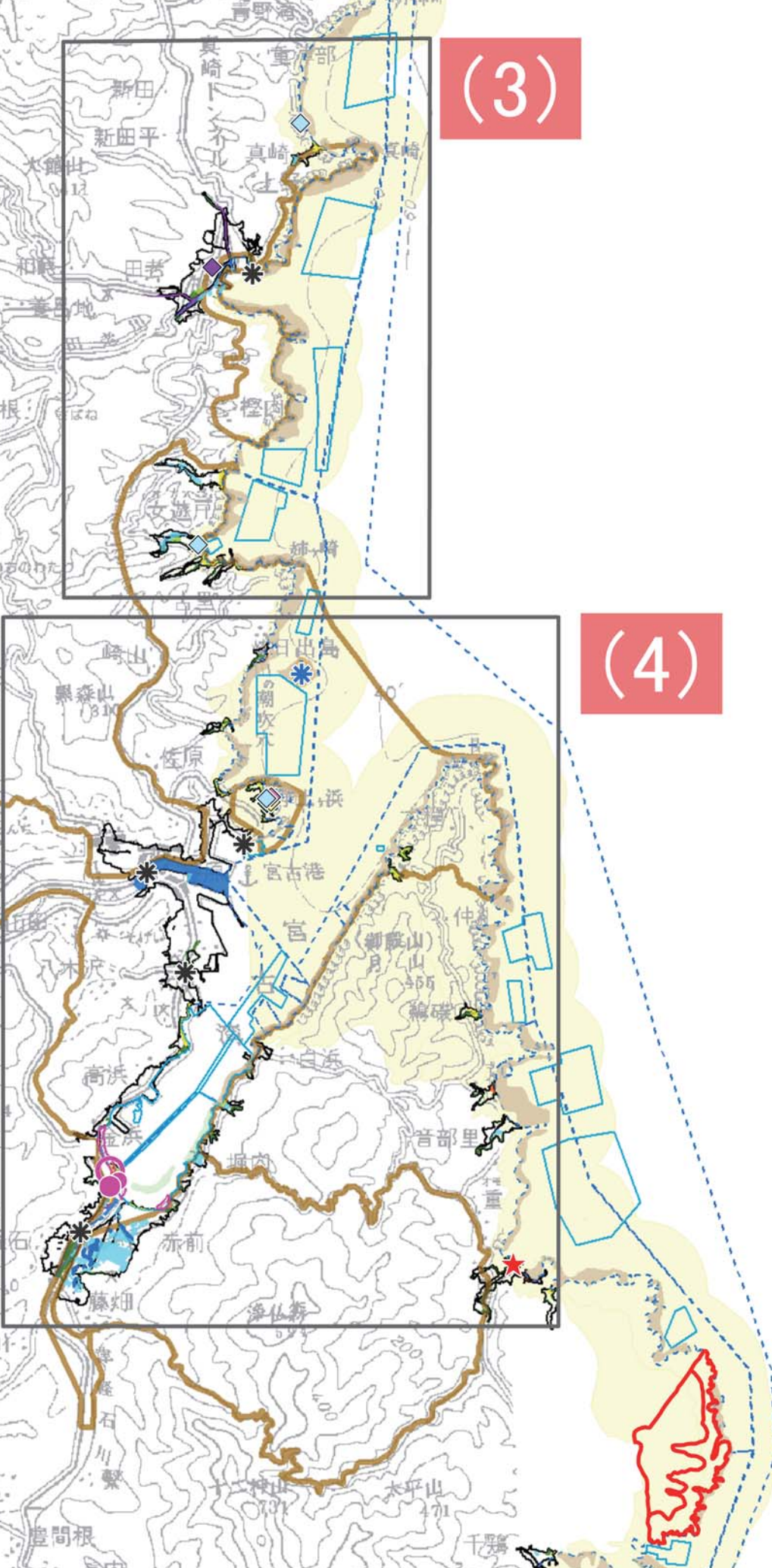
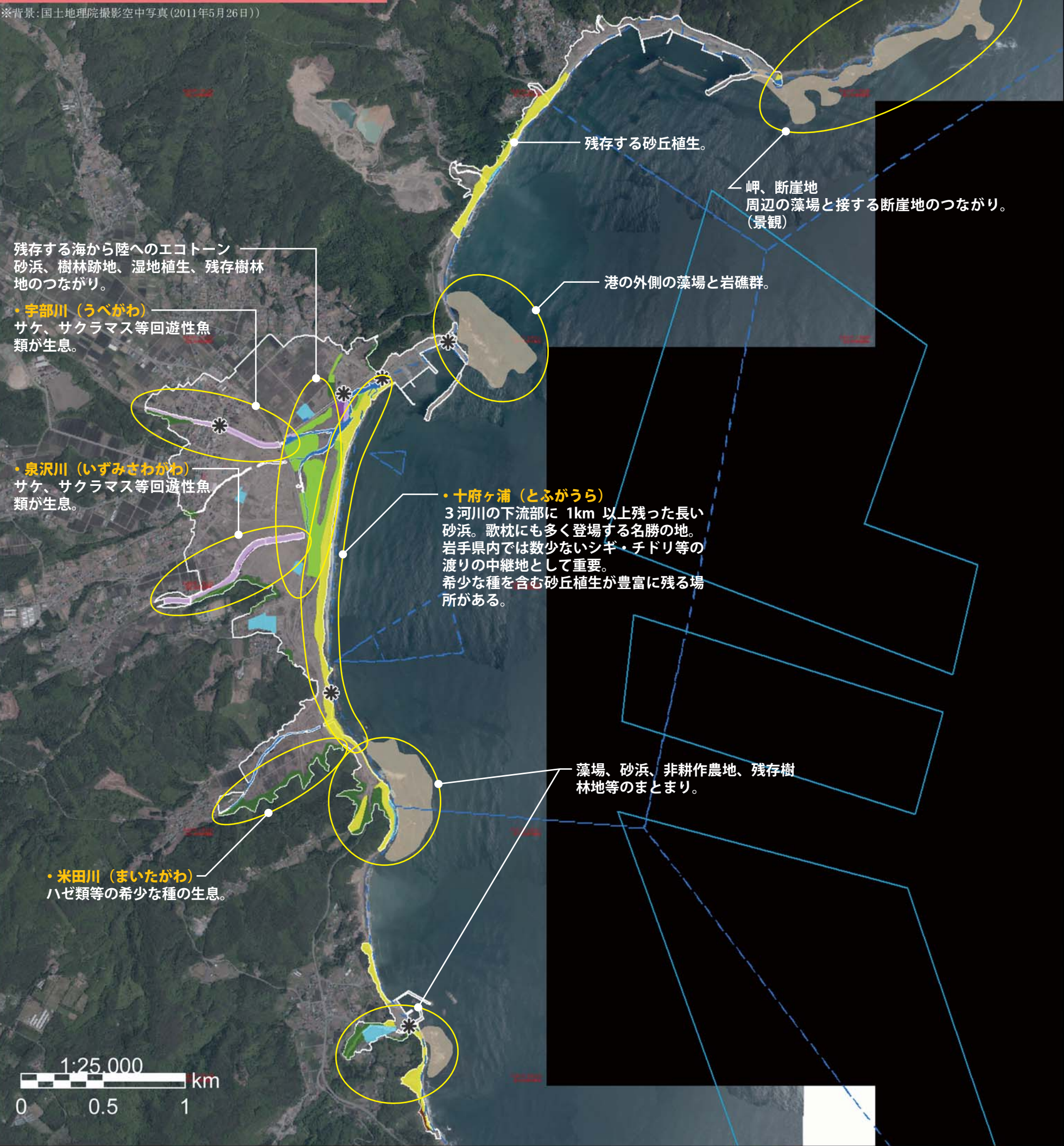
・幸崎（さいさき）
 ウバガイ（ウバガイ）、エゾマテガイ等を多く産する生産性の高い水場、アマモ生息

干洲、砂浜、葦原作農地、残存樹林地等の海から陸へのつながり

・津波石川（つかるいしかわ）下流部
 河川を中心とする、希少な陸生動物が生息する河畔林と湿地等の水辺環境のつながり

砂浜、湿地、樹林地のまとまり

0 0.5 1 km
 1:25,000

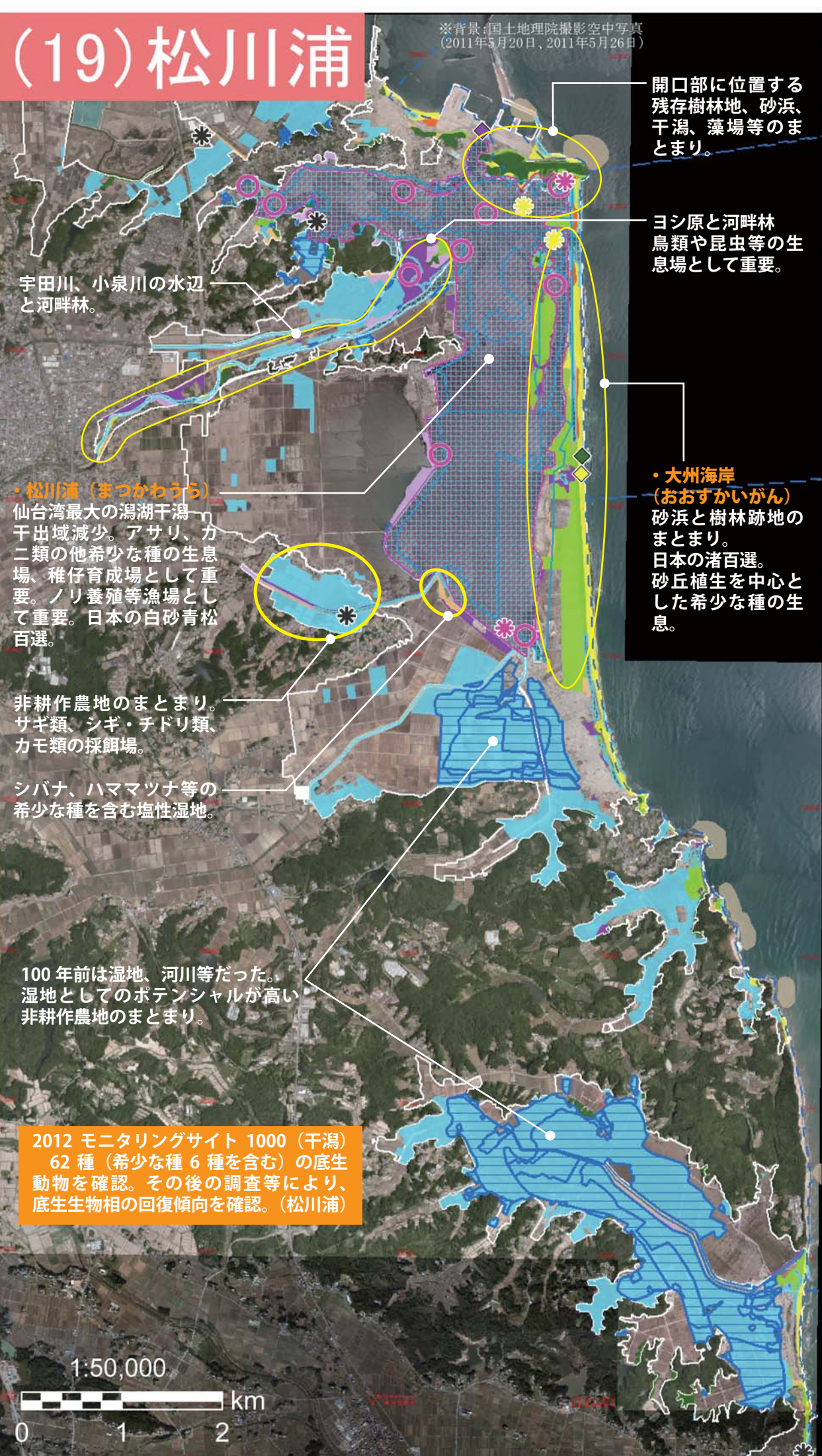
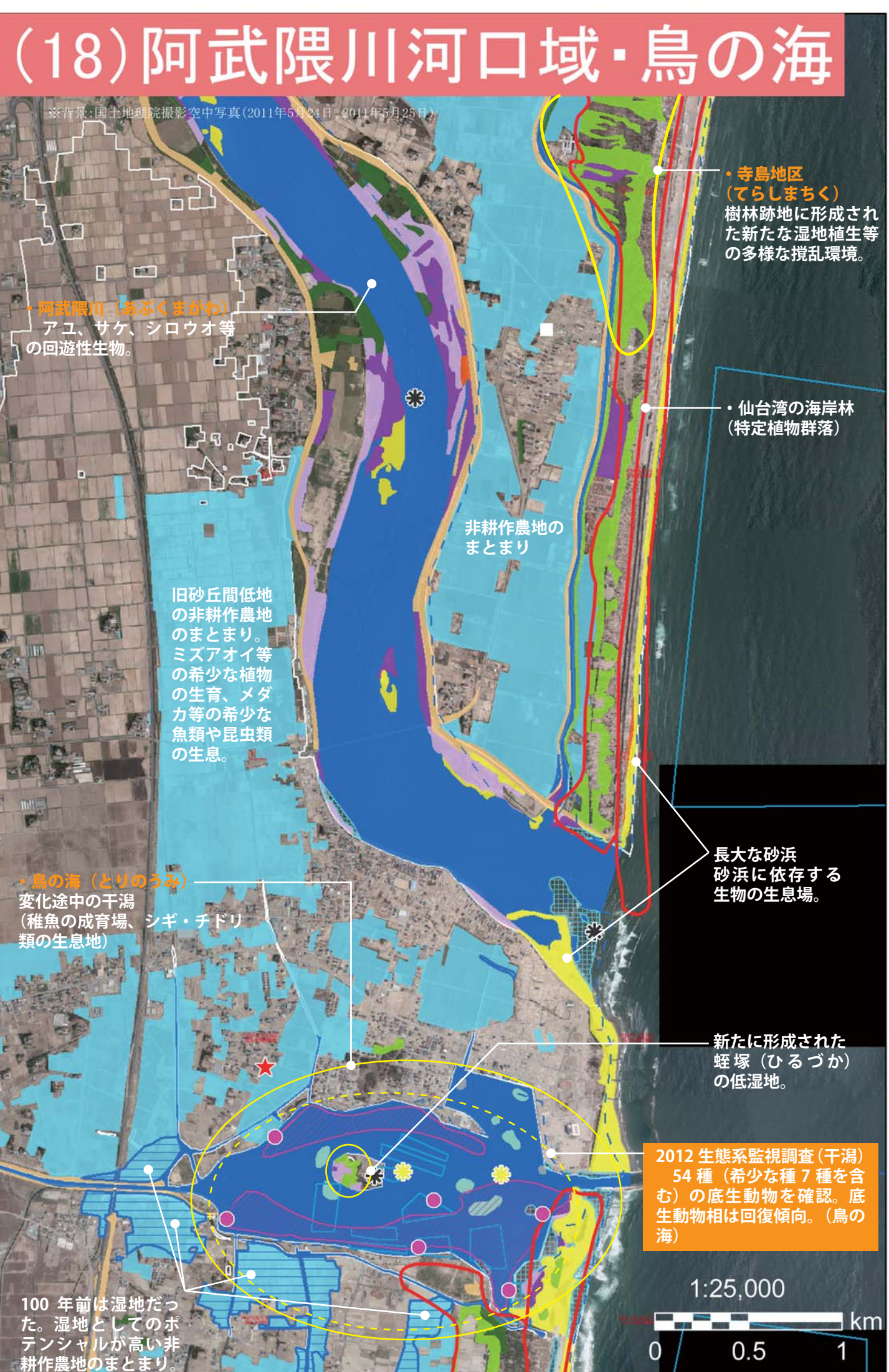
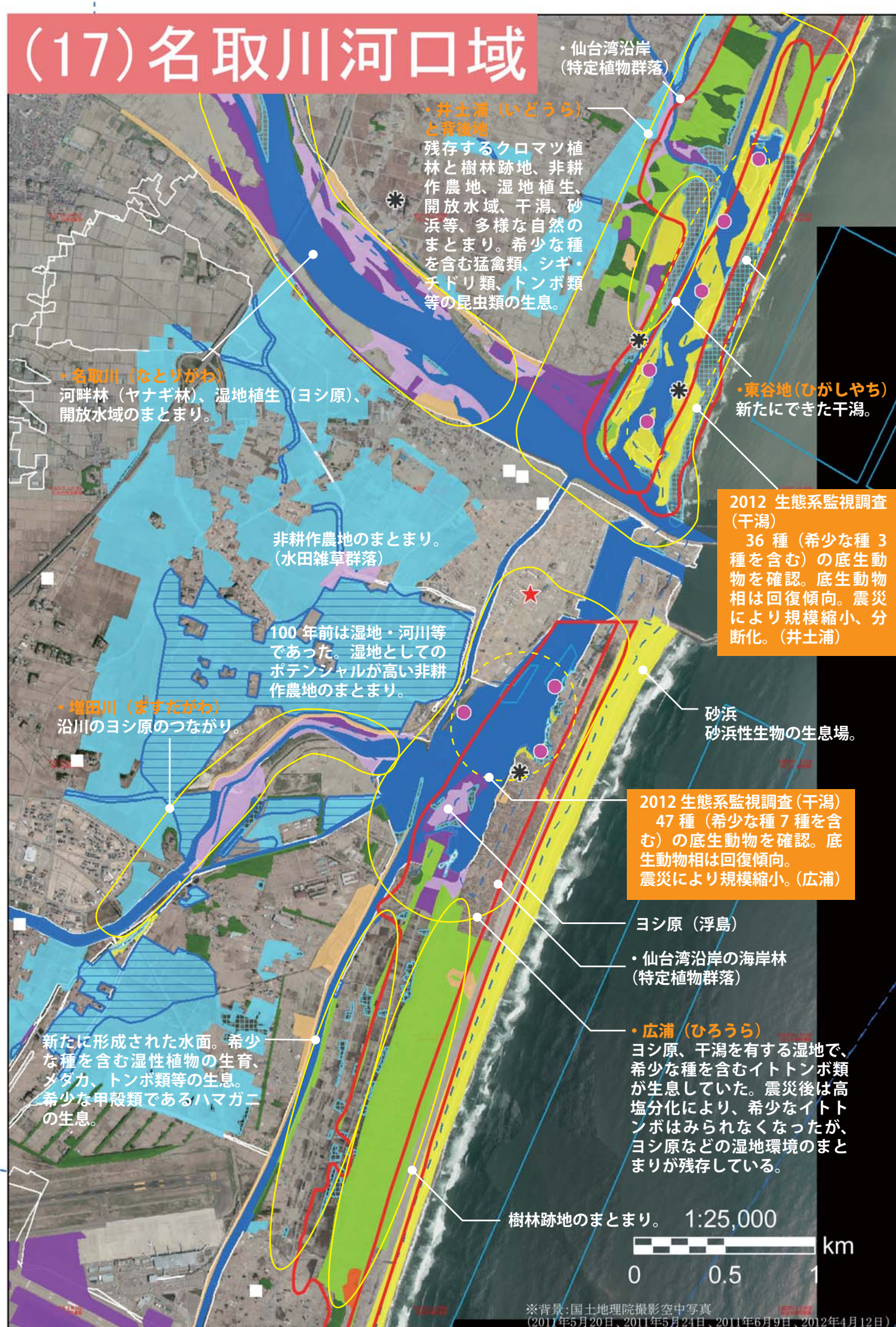
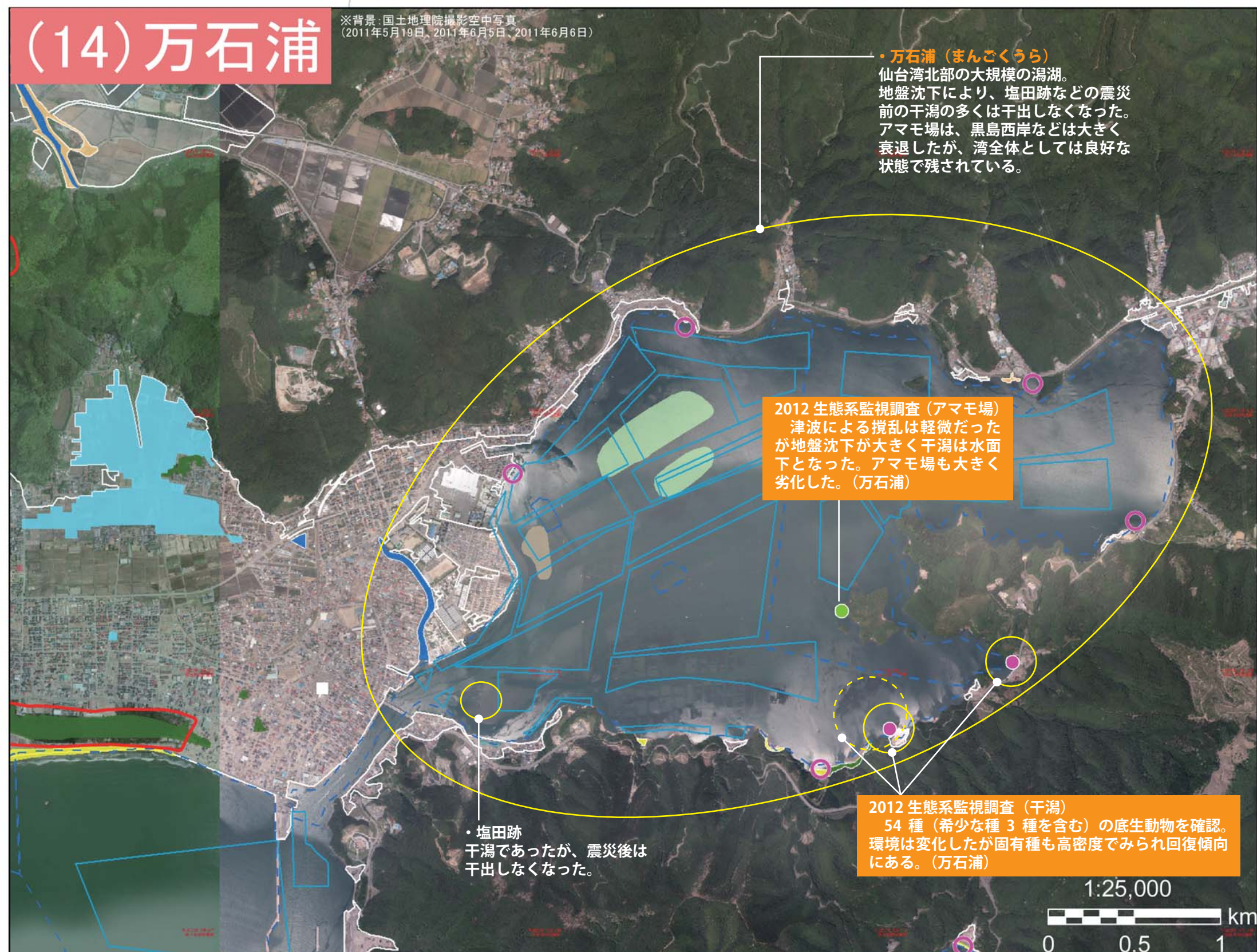
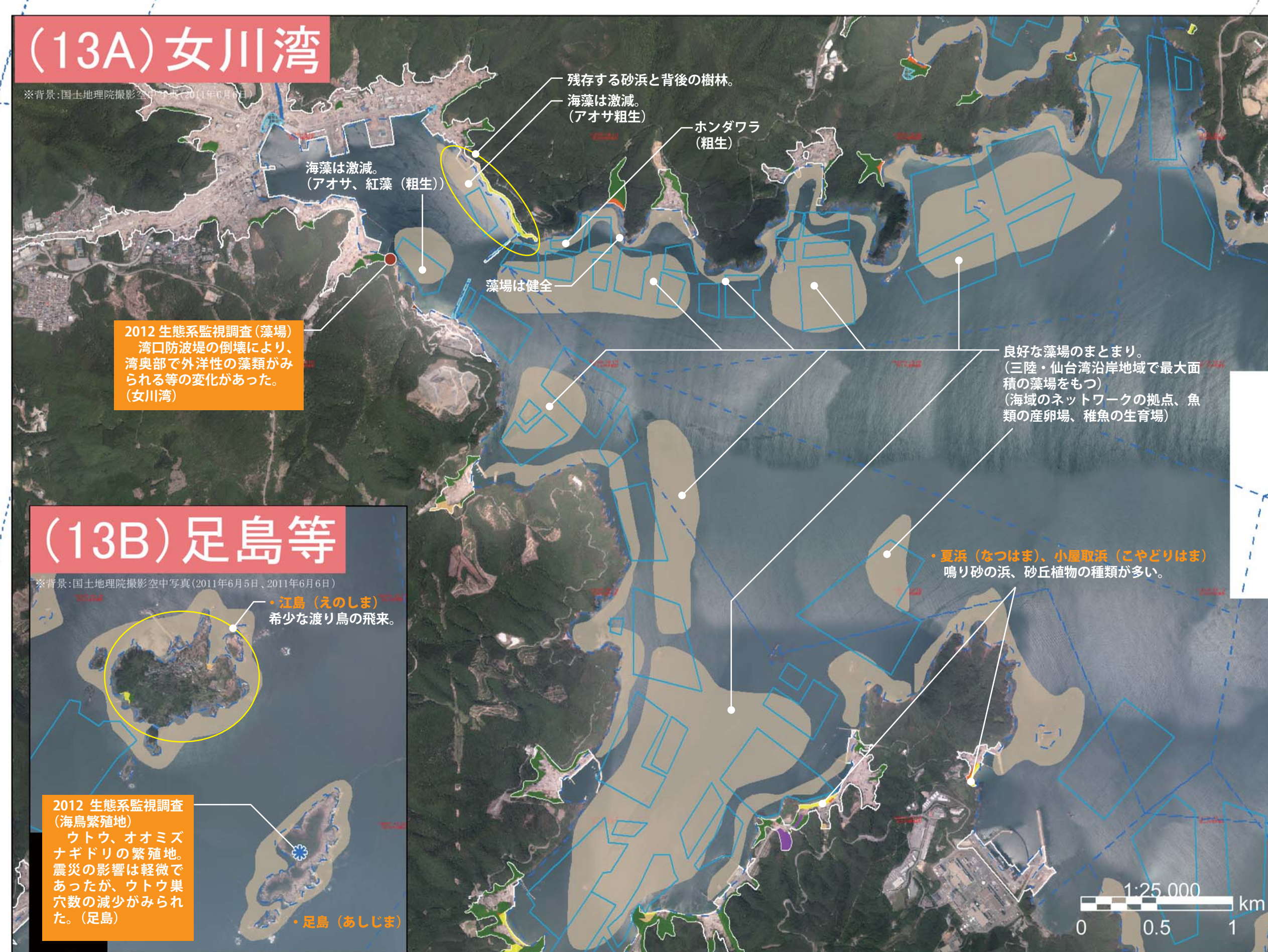
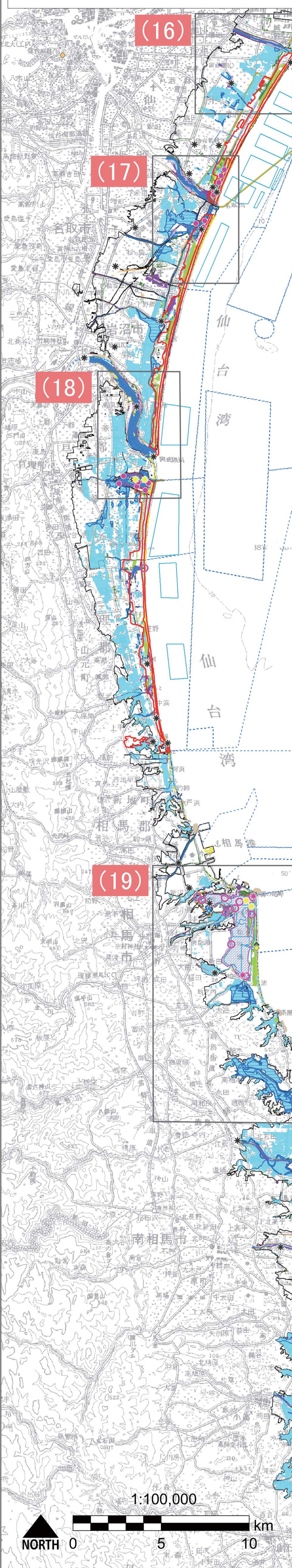
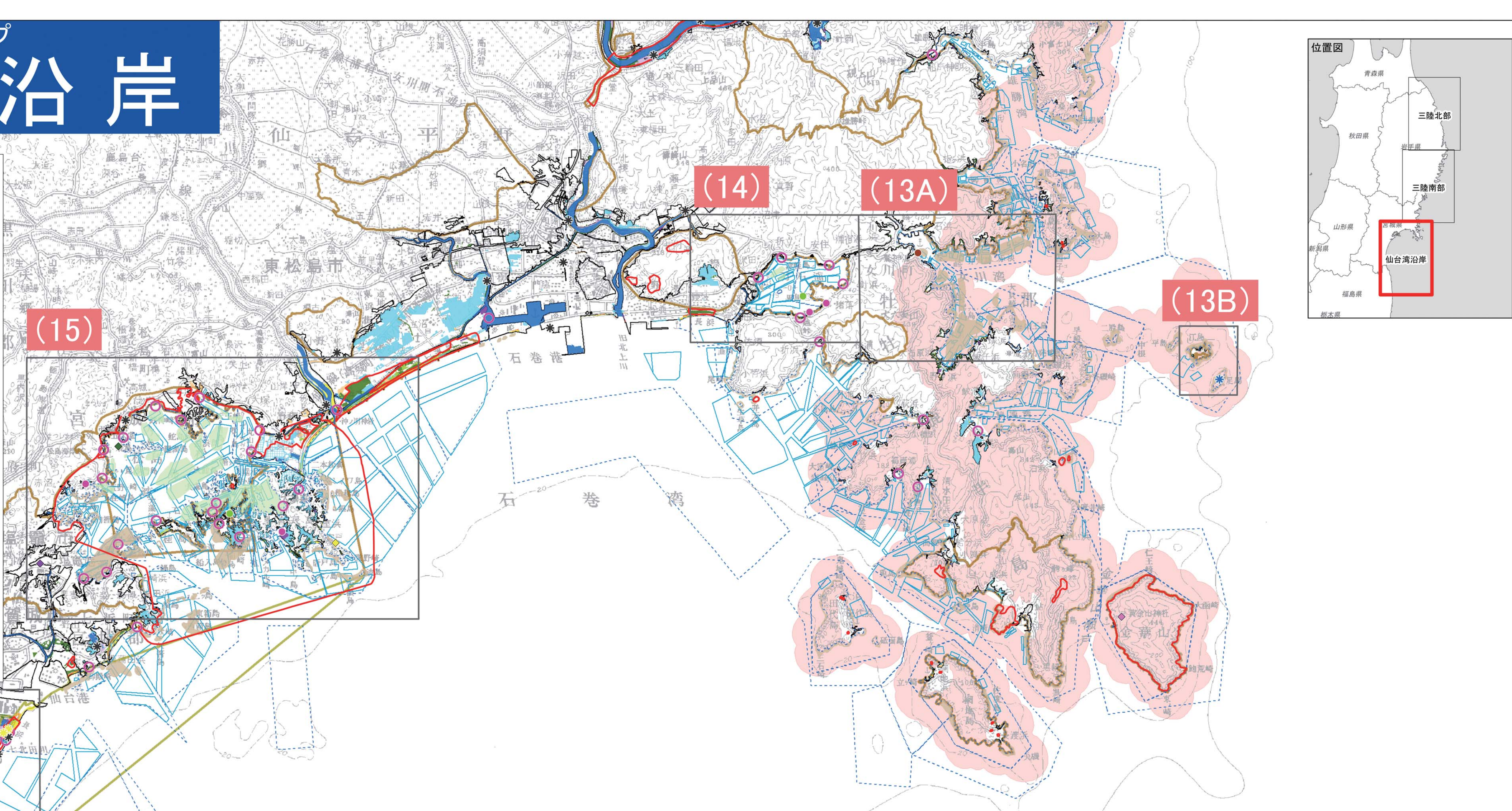


重要自然マップ

年段階の情報を元に作成しています。

重要自然マップ

※2012年段階の情報を元に作成しています



八戸～久慈間開通プレイベント(8月25日)

